

jozai ryoju sen

崇

在
靈
就
鳥
心

vol. 3



崇
在
山
本
土
寺

令和5年8月1日

夏です。お盆の季節です。



水場にはたくさんのいきものたちが集まってきます。境内のハス鉢がまさに今、いきものたちの憩いの場となっているようです。今年はモリアオガエルが卵を産みまして、元気にハス鉢の中をオタマジャクシが泳いでおります。共存ってなんだろう。常々思いを巡らしておりますが、そのヒントがこの小さなハス鉢の中にありそうな気がしている、今日この頃です。

今年も夏がやって参りました。いよいよお盆ですね。

お盆と言えばお墓参りですが、ここ数年の八月の暑さはひとしおです。容赦なく照り付ける日差しと、うだるような暑さ。ほんのちよつと外仕事をするだけで汗が滝のように流れ落ちます。

お互い熱中症にはくれぐれも気を付けましょう。ちなみに私は、梅干しをお湯でといた「梅干し湯」なるものを飲むことで塩分をしっかりと摂取するように心がけております。

「夏場に熱い飲み物はちよつと」と思われる方もいらつしやるかもしれませんが。

かくいう私も冷たい飲み物が大好きなクチですが、温かいものを飲むように心がけてからお腹の調子が良い気がします。

みなさんも是非お試しあれ。

さて、ちよつと話がそれてしまいましたが、本題に戻りましょう。

みなさん、「お盆」って正式には何と呼ぶか御存知でしょうか。

実は「お盆」って略称なんです。

正しくは「盂蘭盆(うらぼん)」といひます。

「盂蘭盆」といふ言葉の響きに、なんとなく日本語離れたものを感じたそのアナタ。鋭いですね。

それもそのはず。

「盂蘭盆」は「ウラヴァーナ」といふインドの言葉が伝わった中国で、インド語の発音に漢字を当て嵌めて、「音訳」といひます。出来た言葉なのですから。

「ウラヴァーナ」はインド語で「自恣(じし)」を表す「ラヴァーナ」といふ言葉が訛つた言葉です。

「自恣」とは何か。実はこれ、古代インドで行われていたお坊さんの修行なんです。

現代風にならば、「修行の反省会」とでも申しませうか。

古代インドのお坊さんは、普段からお寺で法務に勤しんでいる今日の日本のお坊さんと異なり、基本的に一人ないし二人ほどで、特定の宿を

持たず旅をしながら修行していたそうです。

日本昔話に登場する「旅のお坊さん」をイメージしてください。

しかし、これは天気が良い季節の話。

日本と異なり、インド版の梅雨である「雨期」は数カ月間にわたり雨が降り続けます。この雨期の間はなかなか外を歩けないですから、インドのお坊さんたちは一か所に集まって、みんな修行していたそうです。

これを「安居（あんご）」といいます。

普段インド各地を旅しながらバラバラで修行しているお坊さんたちが一同に会するわけですから、安居の修行は一般の方々にとっても特別なものだったようです。

この安居の修行の最終日に行われたのが「自恣」だったんです。

数か月間にわたる集団での修行です。規律を保つため、そしてせっかくの修行の成果を次に繋げるためにも、修行中の反省会は不可欠だったのだでしょう。

お坊さんが各々自分の修行を反省して悔い改めるので、この日は一年の内でも心身ともに最も清らかであるとされてきました。

古代インドではご先祖さまの追善を願って、この日にお坊さんに食事をご供養する風習があったそうです。

ご先祖さまを想う気持ちは古今東西変わらないんですね。

「追善」とは「感謝の祈り」であり「応援の祈り」でもあります。

ちょうど今、オーストラリアとニュージーランドを会場に、サッカー女子ワールドカップが開催されており、ニュースで拝見するサポーターのみなさんの姿は本当に熱気に溢れております。

遠く離れた日本から、サポーターのみなさんが必死に選手たちを応援して勝利を祈るのは、どれだけ遠く離れていても必ず想いは伝わると、祈りのチカラを信じているからにはかなりません。

祈りは決して荒唐無稽なものではないのです。

亡き親族はもちろんのこと、気の遠くなるような人類の歴史の中で確かに生きていた、名前も足跡も分からない人々に対する祈りを是非、お盆のこの機会に捧げてみてください。





七面大明神大祭のご案内

八月と言えば、十七日は当山でお祀りしております、「七面大明神」の大祭です。

七面大明神（通称〓七面様）とは、法華経の守護神として、日蓮宗で盛んに信仰されている龍の女神様です。当山の七面様の御尊像は寛延三年（一七五〇）に奉安され、お堂自体も文政年間（一八一八〜一八三〇）建立のものです。稲作が盛んな当地では長らく雨乞いの神様として信仰を集めてきました。大正十三年夏に当地を襲った大干ばつの際には、有志の方々が三日三晩にわたる必死のお祈りを捧げた結果、満願の日に東の空より突如として黒雲が湧きあがり、大雨が大地を潤したと伝えられております。その際の記念写真が本堂に飾っておりますので、気になる方はぜひ御覧ください。

当地一円の信仰を集めてきた七面様のお祭りであって、以前は大祭前夜はお速夜として、提灯による万灯供養ならびに万灯練行列など大規模に催しておりました。しかし、ここ十年間ほど万灯行列はお休み、万灯供養も提灯の老朽化によってコロナ禍を境にお休みしております。数百年にわたってたくさんの方々の信仰を集めてきた七面様ですから、やはり年に一回のお祭りだけは賑やかに出来ればと考えております。現在、有志の方を募っております。

年中行事のご案内

八月 一日	魂迎会施餓鬼法要
八月 十六日	七面大明神大祭（お速夜）
八月 十七日	七面大明神大祭
九月 二十二日	稲荷大明神祭礼
九月 二十三日	秋季彼岸会法要
十月 十三日	御講
十一月 九日	祠堂法要・御会式
十一月 二十六日	徳前御会式
十二月 十三日	像師講

【編集後記】

昨年春、満を持して三十年ぶりに本土寺の寺報を復刊致しました。しかし、あれから半年間お寺を空けたり、なんかかんやありまして、結局一年ちよつと発行が滞ってしまっておりまして。本当に申し訳ありません。前回はまだまだ試験段階で、ホームページに掲載しただけでしたが、今回は紙媒体でも配布しております。印刷技術の進歩で、データさえ用意すればインターネット経由でも手軽に冊子を作ることが出来るようになりました。本当に便利な時代です。常在山本土寺の広報誌として出来る限りたくさんの方の目に触れて、石川県中能登町の山中にひっそりと佇む常在山本土寺を知って頂くきっかけの一つとなれば、編集者冥利に尽きるというものです。

